

第5次エネルギー基本計画の骨子案の構造

はじめに

- 東京電力福島第一原子力発電所事故の経験を踏まえた立ち位置

第1章 構造的課題と情勢変化

- 構造的課題（資源海外依存、人口減少等 ⇒ 骨格維持
- 情勢変化と対応 ⇒ 最新情勢の反映
 - 2030年エネルギー基本計画 → 3年経過の見直し
 - 2050年シナリオ → パリ協定対応
 - 最近の情勢変化への対応

第2章 2030年に向けた基本方針と政策対応

第1節 基本方針 ⇒ 骨格維持

- 第4次計画の骨格維持、実現重視
- 基本的な方針
 - 3E+S
 - 各エネルギー源の位置づけ（再エネ、原子力、化石等）

第2節 2030年に向けた政策対応 ⇒ 実現重視のための政策の深掘り

- 省エネ（熱・輸送等）・・・各部門の省エネ深掘り
- 再エネ・・・高コスト是正、既存送電網開放等
- 原子力・・・社会的信頼回復、安全最優先再稼働
- 火力・・・発電高効率化、販売電力の非化石化
- 水素、システム改革、資源確保、供給網強靱化 等

第3章 2050年に向けた挑戦 ⇒ 情勢懇提言の反映

- 野心的な複線シナリオの採用～あらゆる選択肢の可能性を追求～
- 2050年シナリオの設計
 - 「より高度な3E+S」
 - 科学的レビューメカニズム
 - 脱炭素化エネルギーシステム間のコスト・リスク検証
- 各選択肢が直面する課題、対応の重点
- シナリオ実現に向けた総力戦